

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	原発性肺腺癌患者における微小乳頭状成分が術後再発時期に及ぼす影響
	研究目的	これまでの研究結果から、肺腺癌の患者さんの手術検体中に「微小乳頭状成分」と呼ばれる構造が存在している場合、それを持たない場合と比べて、術後再発を来たしやすく予後が悪いことが報告されています。肺癌の根治手術後のいつ頃の時期に、どのような腫瘍が再発しやすいのか、といった指標はこれまで十分に明らかになってはいません。そのため、平滑化ハザード関数という手法を用いて、肺腺癌における微小乳頭状成分が、術後再発時期へどのような影響を及ぼすのかを調べるため、本研究を実施します。
	研究対象者	当センター呼吸器外科で、2008年1月1日から2015年12月31日までに原発性肺腺癌完全切除を行った方
	研究期間	西暦 2020年2月13日～西暦 2020年7月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	呼吸器外科・部長 伊藤宏之
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし